

～有田史談会 発足の経緯と思い出～

有田に帰省直後、商工会議所主催の「語り部講座」に参加、講師の尾崎葉子氏から有田の名所旧跡をお話頂き、誇らしい郷土を知る機会を得ました。

有田に生まれ育ちながら郷土のことを何も知らずに育った私は、当時有田に初めて誕生したNPOメンバーの誘いで、観光部門の担当理事としてガイド事業を牽引した時期があります。5年後、活動していたNPOを離れ、新たにガイド活動に特化したNPO法人アリタ・ガイド・クラブを設立、当時県立九州陶磁文化館を定年退職された大橋康二先生を理事長に迎えて、4年間という短い期間ではありましたが活動を共にしてまいりました。

NPO法人設立直後、尾崎葉子有田町歴史民俗資料館館長から提案して頂いた「150年前の有田皿山ば 歩こう隊」の活動を「花王・コミュニティミュージアム・プログラム2009」に応募、この活動は「安政六年松浦郡有田郷図」をもとに江戸時代の有田を再確認しながら歩いて調査するもので、3年間にわたり資料館と協働で活動出来たことはとても良い思い出になっています。

2013年にNPO法人を解散後、歴史民俗資料館を支援するため「れきみん応援団」を起ち上げましたが、支援活動は今日まで続いています。

また、有志で「Twenty Thirteen」という新たな親睦をかねたサークルも起ち上げました。翌年には「有田皿山2013ボランティア隊」と名称を替え、町内の観光拠点の清掃活動も行いました。2016年4月からさらに改称し「有田史談会」が誕生、新たな活動が始まりました。

有田史談会の発足直後は、会長西山峰次氏のもと楽しい活動が始まりましたが、2017年4月西山氏の突然の急逝で活動がしばらく停滞しました。

翌2018年、坂井勝也氏を新会長として選出して「会報」の発行も再開しました。

また、2020年春から新型コロナウイルスの流行が約4年間も続き、その間史談会の活動には大きな影響を受けました。各自自宅での研鑽を余儀なくされましたが会員個々の努力で辛うじて会報発行だけは継続してきました。2021年からは会報を年2回の発行に増やし、会員には更なる努力を強いることになりましたが、皆様のおかげで13号を数えることとなりました。

会報は自己研鑽の発表の場を提供するだけでなく、会員相互の研鑽啓発にも繋がっています。今後も臆することなく各自が目標を持ち挑戦を続けて行きましょう！

令和7年1月20日



有田史談会

事務局 中村真光